

2021年度
学校だより
第12号

しもね

牛久市立下根中学校
令和3年9月1日
文責 校長 本橋和久

「希望・あこがれ」と「危機意識」を ～ 臨時休業時の心の持ち様

新型コロナウイルスのデルタ株への置き換わりが進む中で、児童生徒への感染も懸念されています。茨城県は国の緊急事態宣言下の9月12日（日）まで茨城県非常事態宣言を延長しました。この期間学校は臨時休業とし、文部科学省通知に基づき「感染症や災害等の発生時にやむを得ず登校できない場合の学習」を各家庭で進めていきます。危機意識を高めながらも、中学生としての希望やあこがれをもち、決して諦めず、たとえ離れていても仲間たちと互いに心を通わせながら学び続けてほしい。この状況をひとつの「困難な課題」と捉え、私たちの底力を発揮して解決を目指しましょう。

- ◇新型コロナウイルスへの危機意識を新たにする！
 - ・変異株への置き換わりによる強い感染力への警戒(十分な換気・マスク着用・手洗い等)
- ◇希望やあこがれを心の支えにする！
 - ・どんな状況にあっても、最善を尽くし今できる最高の学びを追求(卓越性の哲学)
 - ・困難な状況だからこそ、仲間、家族、学校の教職員との心の支え合いを！(リスペクト・ケアリング)

デジタル教材や紙媒体の組み合わせによる「ハイブリッド学習」

休業中の家庭での学習は、具体的には次のような方策を組み合わせを進めていきます。これらの内容は、配付した各学級の時間割表に毎日5時間ずつ位置づけられています。1日1回は、学年により時間帯をずらしてオンラインによる学級担任との学級活動（朝の会のような短学活）を行い、生徒のみなさんの元気な姿を確認したり、困ったことや訊きたいことを共有したりします。

- ・教科担当教員とのライブによるリモート学習(1日あたり1～2コマ程度)
- ・いばらきオンラインスタディやe-ライブラリによる学習
- ・教科書、ノート、ワークシート等の紙媒体を活用した個別学習・読書 など



家庭での学びをこれからの活かすために ～ 振り返りと学びの足跡

この期間に家庭で学習したことを十分に今後の授業に活かすため記録として残します。学校では、その記録をもとに登校再開後の授業をデザインしたり、個々人の学習状況の記録として公定帳簿に記入したりします。なお、学習の記録の仕方は、各学年、各教科の担当者から連絡します。

- ◇学校は休業中であっても、その間の学習内容は登校再開後の授業に活かしていきます。
 - ・登校再開後は、重要ポイントを再確認しつつ、基本的には授業を先へ進めていきます。進度が大幅に遅れないようにするためです。卒業を控えている3年生には進度は特に重要です。
- ◇家庭での学習は、その生徒の学習の事実として記録され、その帳簿は20年間保存されます。
 - ・卒業後に、中学校で学んだ証明書が必要な場合に備えて20年間保存する帳簿があります。その帳簿にこの期間に学んだ事実を記入します。

緊急時シミュレーション ～ 8月26日(木)

コロナ禍における熱中症を想定した教職員訓練を実施しました。心肺停止の患者に対する救急隊到着までの応急処置、家庭への連絡、市教委への報告、健康な生徒への指示や誘導など、その時に居合わせた職員が即時的に役割を分担して対応できるようにシミュレーションしました。現状では救急搬送先が決まらないことも想定され、学校医や医療機関とのリモートによる救命救急体制を構築する必要性も明らかになりました。今後の課題です。

